

令和 7 年度 千葉県における「あかむつ千葉県海域」に係る資源管理協定の取組効果の検証結果（中間）

（１）千葉県におけるアカムツの漁業実態

千葉県におけるアカムツの漁獲は、近年は銚子地域での漁獲がほとんどで、大臣許可漁業を除く漁法としては主に釣り漁業によって漁獲される。

（２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

当面の間、年間漁獲量を直近 5 年間（平成 28 年から令和 2 年まで）の平均値（19 トン・県内主要港）程度に維持し、資源の持続的な利用を図る。

該当する資源管理協定

「あかむつ千葉県海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、2 漁協所属の約 15 名がアカムツを対象とした協定に参加しており、全協定が本検証の対象となっている。

協定	備考
天羽	
銚子市	

本検証の対象協定

自主的取組

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
つり漁業	休漁日の設定	休漁日の設定（天羽漁協魚市場の公休日）	天羽
	休漁日の設定	休漁日の設定（銚子漁港魚市場の休業日）	銚子市

協定に記載されている取組

（３）資源管理の取組状況

本県主要漁協（目標における「県内主要港」と同義）におけるアカムツの漁獲量は 2001 年の約 44 トンをピークに、その後 2010 年頃にかけて減少した。その後、現在に至るまで 10～20 トンの範囲で安定しており、2024 年は 14 トンで資源管理の目標において維持するとした平成 28 年（2016 年）から令和 2 年（2020 年）の漁獲量の平均値を下回っていた（図）。なお、漁法は主に沖合底びき網漁業と釣り漁業であり、近年の

本検証の対象となっている釣り漁業での漁獲は約半数となっており、さらにその大部分を銚子地域が占めている。

協定参加者による検証（自己点検）では、漁獲努力量は 1 地区で維持、1 地区で減少と判断されているものの、漁獲量及び CPUE（単位努力量あたり漁獲量）は、1 地区で維持、1 地区で減少と判断されており、減少とした地区は銚子地区であった。また、魚価（単価）は 1 地区で上昇、1 地区で維持していると判断されている。

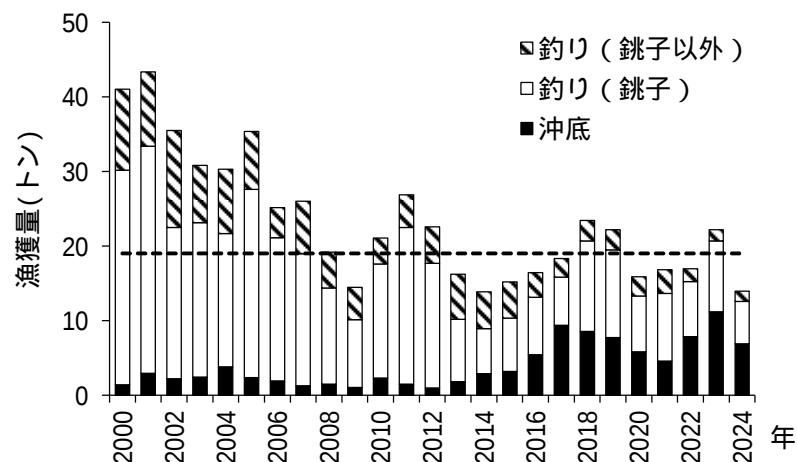


図 本県主要漁協におけるアカムツ漁獲量の経年変化（棒グラフ）及び資源管理の目標とした漁獲量（点線）の比較（千葉県調べ）

（４）資源管理の効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

アカムツについては休漁日の設定が実施されているものの、直近年の漁獲量は資源管理の目標を下回っており、自己点検では全協定で漁獲努力量は維持もしくは減少していると判断される中、銚子地区では漁獲量及び CPUE の減少などにより「取組の効果は感じない」とされた。一方で、現在の取組が不十分とは判断されておらず、効果を感じられない要因は海況による影響の可能性があるとは判断されている。近年は黒潮大蛇行などの海況の変化が顕著であり、特に銚子沖では黒潮が接岸傾向であったことから、漁獲量が資源管理の目標を下回ったことや自己点検で取組の効果が感じられなかったのは、海況が原因となっている可能性は否定できない。

このため、資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海況を始めとする海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。